

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">~2022</div> <h1 style="margin: 0; padding-left: 10px;">障害者福祉演習</h1>	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	1・2年
	担当教員	三浦 剛	

■授業のテーマ

障がいがある人とのソーシャルワーク方法論、評価方法論を検討し、その方向性を考える

■授業の目的

障がいがある人へのソーシャルワーク支援事例、また障がいがある人へのソーシャルワーク研究をとおして、支援の論理化を目ざすと同時にソーシャルワーク研究の視点をつくる。

■授業の到達目標

- ・ 障害者福祉領域におけるソーシャルワークの歴史、理念を説明することができる。
- ・ 障害者福祉領域のソーシャルワーク実践の現状と課題を整理し、説明することができる。
- ・ 障害者福祉領域のソーシャルワーク研究の現状を説明することができる。

■授業の概要

ここでは障害がある人への支援（相談支援事業や就労支援など）、また社会参加、社会貢献に焦点を当て、資料や事例、文献、研究論文を用いてその実態を把握し、支援方法と評価方法の検討を行う。

■スクーリングの事前課題（学修時間の目安：6時間）

事例研究や研究論文のレビューなど発表のための資料を作成しておいてください。事例はご自身の実践事例以外にも社会福祉援助技術演習の教科書などを参考にしてください。事例はソーシャルワークの過程や支援技術が明確なものを選び、その代表性を明確に示してまとめておいてください。研究論文のレビューは自身の関心分野に関する先行研究を数点まとめて報告の視点を明確にしておいてください。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	障がい者支援におけるソーシャルワーク研究の枠組みと事例研究の方法を確認する	オンデマンド
2	ソーシャルワークの枠組みから障がい者支援を視る（ミクロ・レベルからマクロ・レベルへの連続性、システム論から）	オンデマンド
3	ソーシャルワークの枠組みから障がい者支援を視る（エンパワメント、アドボカシーから）	オンデマンド
4	ソーシャルワークの枠組みから障がい者支援を視る（支援評価理論から）	オンデマンド
5	支援事例、事例研究の分類・修正	リモート
6	支援事例、事例研究の分類、論理化（ミクロ・レベルからマクロ・レベルへの連続性から）	リモート
7	支援事例、事例研究の分類、論理化（アドボカシー、エンパワメントの視点から）	リモート
8	支援事例、事例研究の分類、論理化（システム理論、評価理論から）	リモート
9	支援事例、事例研究の分類、論理化のまとめ	リモート
10	障がい者支援におけるソーシャルワーク・モデルの検討（生態学的視点について）	リモート
11	障がい者支援におけるソーシャルワーク・モデルの検討（生活モデルについて）	リモート
12	障がい者支援におけるソーシャルワーク・モデルの検討（アプローチ方法について）	リモート

■スクーリングの事後課題

課題 1

障害がある人の社会参加、社会貢献について支援者、研究者（学修者）の視点からまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

地域生活支援はニーズの把握に始まり、社会資源開発のためのソーシャルアクションなど多くの社会福祉援助技術を用いて行われます。その人らしい自立した生活を進めるためにこれらの技術をどう使うか、最終的にその支援によってその人の社会参加はどの程度進んだのか、また、ソーシャルワーク研究は障害者支援にどの程度寄与したか考えてみてください。

■評価の方法・基準

- ・プレゼンテーション（障害者福祉領域のソーシャルワーク実践と研究の現状と課題に関するもの）(75%)。
- ・レポート（25%）

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

「障害者福祉論研究」を参照してください。